

## 第5回「学校施設の有効活用に関する有識者会議」意見要旨

1. 日 時：令和8年2月20日（金）10:00～11:30
2. 場 所：教育委員会事務局 教育委員会会議室
3. 意見要旨：

### ■議題1 「アンケート結果の報告」について

◇事務局より、資料「学校施設の有効活用について」を用いて、以下の3つのアンケート結果について報告

- ・開放運営委員会に関するアンケート
- ・学校アンケート
- ・ICTモデル実施校アンケート

### ○開放運営委員会の独自ルール等について

- ・学校ごとに行事や事情があるため、最低限のルールは必要と感じている。むしろ独自ルールのない開放運営委員会はどのように運営しているのかが疑問。
- ・自身に関わる開放運営委員会では年度当初にガイドラインを利用団体に配っている。一般公開はしていないが、少なくとも周知する努力はしている。
- ・原則として、神戸市としてのルールがある。独自ルールそのものはあってもよいが、誰でも見ることができるよう公開しておく必要がある。
- ・神戸市では、施設開放が独自に発展を遂げているが、排他的になっていないか心配している。
- ・独自ルールが行き過ぎ閉鎖的になってしまわないよう、本来の意義を啓蒙する取組を行うべき。
- ・開放運営委員会では、年に1回の説明会で趣旨が説明されるのみのため、説明を受けるのが出席した方に限られるほか、その理解度にも差が生じてしまっている。
- ・開放運営委員会でも、スポーツクラブの連絡協議会のような横の連絡組織を設置し、相互理解を図るべき。
- ・アンケート結果で「空き枠がない」は特定グループの独占利用が想定される。閉ざされた運営にならないよう、2年に1回程度の見直しなど、公平性を高める仕組みが必要。

### ■議題2 有識者会議の意見まとめ（案）

◇事務局より、資料「学校施設の有効活用に関する有識者会議 意見のまとめ（案）」を用いて、有識者会議としての意見のとりまとめについて提案

### ○「第1章 学校施設開放事業の現状と課題」について

- ・交通の便が悪い学校（地域）では、自動車の利用が必要となる。有効活用の観点からも駐車可能台数を増やすことや、台数に応じて有料化するのも一手と考える。
- ・自動車の利用については、なるべく利用は控えるべきものと考えている。利用者の利便性は理解するが、学校事情も勘案し、個別に調整することが必要となることから、一律にルール化は難しい。
- ・コベカツの開始で自身の団体も活動できなくなるのではないかとといった不安がある。学校ごとにコベカツ登録数が異なり、空き枠や抽選枠に差が生じるので、現行の校区限定抽選の仕組みでは公平ではなくなるため見直すべきである。

## ○「第2章 有識者会議における主な意見」について

- ・「優先順位の明確化」はとても重要だと考える。第2章に記載する並びでは、「利便性の向上」が最優先に見えてしまうため、工夫してほしい。
- ・中学校はコロナ期からICT化が進み、制度がある程度確立し、課題も見えてきた。一方、小学校は長年の開放運営委員会の強固な独自ルールがあり、方向性を見出しづらい。
- ・最終的に市全体でICT化を目指すのか、あるいは独自ルールを整理して誰もが使いやすい方向を目指すのか、わかりづらくなっている。
- ・学校施設開放事業のICT化は利便性向上につながる一方で、これまで独自の運用ルールのもとで、子どもの活動や地域に根ざした取組を支えてきた方々の思いにも十分配慮してほしい。
- ・スポーツクラブは、地元の人が地元の子どものためにボランティアでやってきた。これまでも学校施設の管理などに協力してきている。既得権益の問題はあるが、新しい制度ができるがゆえに、一律に活動が制限されるのではなく、差別化を図ることで、優先順位を明確にしてほしい。
- ・市民図書室としての意見は、「人材・後継者不足のためにも、参画しやすい環境を整える必要がある」という趣旨である。
- ・仕事に関することだけが障害ではなく、開放運営委員会への出席や学校との調整などの心配事があって、もう一歩が踏み出せない方もいる。開催頻度や役割分担など開放運営委員会のあり方もオープンになれば、より開かれたものにできるのではないか。
- ・先生方は本当に地域と一緒にという意識を持ってきている。「教員の意識を変えていく必要がある」ではなく、「教員にこうした意識を持っていただく」等の柔らかい表現がよい。

## ○「第3章 これからの学校施設開放の方向性」について

### <優先順位の明確化について>

- ・優先利用の規定については、地域に関わり、地域を支えている方々を核に据えながら、固定化しないよう利用のあり方について考えてもらいたい。
- ・中学校の施設利用では、コベカツで利用枠が埋まってしまう学校もある。子どもの活動優先とするのであれば、小学校施設の開放も子ども優先となるのか。
- ・分類例があるが、実際に制度の再構築にあたっては、地域活動との整理はどうしていくのかなど、具体的なイメージの共有が必要。
- ・「子どもの主体的な活動」を目的とする団体を、「地域コミュニティづくり」を目的とする団体より優先するというのであれば、明確に優先順位を示すべき。
- ・開放運営委員会の活動は地区ごとに異なるため、各学校に設置されている学校運営協議会という仕組みを活用し、その場で話し合いながら、皆さんの良識に基づいて現実的な優先順位を決めていくことが適切だと考える。
- ・本音は子ども優先。一方で、神戸市は「地域に開かれた学校」を掲げているため、ここで細分化し、優先順位を明確にしてしまうと矛盾を生む。
- ・開放運営委員会によって優先順位が異なると公平性の問題が出る。団体の申込時に、チェック項目等で確認できるようにし、優先利用か一般利用かを一定程度明確にしておかないとうまくいかない。
- ・地域で定期的に利用している団体と一般の方では意識が異なる。区別があいまいな状態で発信すると苦情となる可能性がある。
- ・開放運営委員会が対応に追われることになるため、優先分類という言葉を入れた方が、申込者の理解が進み、トラブルの予防には有益。
- ・これまで子どものクラブと大人のクラブの区別すらなかった。区別が示されたこと自体が大きな前進でありがたい。
- ・10年くらい前の、施設開放のあり方検討委員会で、「大人のクラブと子どものクラブは違

う」という発言があったが、それがようやく反映された。段階的に整理が進んできた。

- ・開放運営委員会の権限が大きくなる懸念もあるが、はっきり書きすぎるより議論の余地を残した方が柔軟に対応できる。
- ・優先順位を一律に細かく決めると、これまで各地域で積み重ねてきた運用と合わず、かえって調整が難しくなる場合も考えられる。一方で、市として一定のスタンダードを示し、公平性を担保することも重要。

#### <学校運営協議会との連携について>

- ・学校運営協議会の枠組みの中で、学校施設の利用に関することを協議していけないか。
- ・子どもの学びを支えることを基本に、子どもの放課後活動、生涯学習、地域づくり等を、学校運営協議会を軸に据えながら調整を進めていけばよい。
- ・学校運営協議会もできたばかりの仕組みであり、これから成長させていくもの。調整に関しては、下部組織のような位置づけとして、運営に関わるところで協力を得ることができるような仕組みを検討できないか。
- ・学校運営協議会がうまくいっているところについては、これが理想の形となる。一方、そこまで機能していないところもあり、学校運営協議会そのものがしっかりしている必要がある。
- ・学校運営協議会の実態も学校によって様々となっている。「学校運営協議会の部会として位置づける」という表現で、イメージが共有されるか不安。
- ・学校運営協議会とは別に会議を開催することになるのか、それとも学校運営協議会の中で、学校開放について議論する時間を確保するのか。あるいは、利用団体について、これまで活動していた団体も一旦、白紙に戻して議論することになるのかなど、そういったことがどのように整理されていくのかを共有していくことが重要である。
- ・学校運営協議会の委員が開放運営委員を兼ねる形もあり得るが、実際に活動しやすい形が望ましい。下部組織という表現がよいかかわからないが、施設管理者は校長であり、学校運営協議会としてグリップできる形にしていく必要がある。学校運営協議会の理念は、「みんなで協議しながら学校・地域を良くする」であり、その位置づけの方が学校・地域双方に分かりやすい。
- ・イメージとしては「部会」よりも「地域学校協働活動のネットワークの一部」と捉える方が分かりやすい。教育課程外の活動は、地域学校協働活動の中で行うのが本来の姿である。部会として完全に取り込んでしまっている姿よりは、地域活動として学校運営協議会に参画している姿のイメージを持った方がよい。
- ・学校運営協議会も開放運営委員会も目指すところは同じ。新たな形になっても、既存のスポーツ活動が損なわれるものではない。
- ・開放運営委員会が学校運営協議会に入ることは重要。「公正で透明性のある運営」を徹底すれば、多くの課題は解決できるのではないか。そのためにも利用ルールや優先順位の公開が重要となる。学校運営協議会に入ってもらい、公開することで運営が円滑化する。
- ・調整には多様な団体が一緒に入って考えることが基本である。開放運営委員会のみ、スポーツクラブのみが独自で運営する形は、社会変化に対応できない。
- ・学校運営協議会の認知度が極めて低い。保護者も地域住民も学校運営協議会を知らない。学校運営協議会の地位を確立しないと、現在の議論は地域に持ち出しても進まない。認知度を上げるところから再出発が必要である。
- ・学校運営協議会との連携の中で、学校施設開放事業の地域貢献事業が取り込めないかを念頭に置くべき。地域を取り込むことが本来の姿。学校施設開放事業は生涯教育も含むため、児童や生徒だけではない。簡単ではないかもしれないが、学校運営協議会の方向性として示すことはできないか。
- ・学校運営協議会と開放運営委員会が連携するというのは非常にいいことだと思う。下部に入るかは悩ましいが、子どもや学校に関わる活動をまとめる組織として学校運営協議会を前面に出して連携していくのは有効である。一方で、それをとりまとめる学校運営協議会の会長や校長・教頭先生の負担が増えないか懸念する。
- ・学校運営協議会は、学校や子どもに関わる人たちが対話を通じて学校づくり・地域づくり

を進めていく場である。これまでそういった場がなかったことから、学校運営協議会の成熟度に差はあるが、学校開放の議題が入ることで、学校運営協議会自体の成長にもつながると考えている。それぞれの実態にあわせて、緩やかに成長できればよい。

- ・これを機に地域・学校との対話を深め、教育課程について理解を広げていくことが重要であり、そのためには理想を掲げることも必要である。